

# 網走市校務DX計画

1人1台端末を導入してから、Googleワークスペース、授業支援ツール、学習eポータル等を活用し、ICT教育を推進してきました。

教職員間においては、校務支援システムのグループウェアやデジタルサーバー、Googleワークスペース等を活用し、伝達事項や各種資料及び教材をデジタル化し共有しているところです。

今後、校務DXを推進するために「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、次に掲げる事項を推進します。

## **1. 校務系・学習系ネットワークの統合**

現在、教育ネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」の2つに分離し、インターネット経由から児童生徒の個人情報等にアクセスできない構成としております。

そのため、校務用と学習用それぞれに端末を用意し、校務用端末の持ち出しを禁止しています。

今後、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、1台の端末で「校務系」と「学習系」を切り替えて利用できるよう、ゼロトラストの考えに基づき、セキュリティを確保したネットワークの統合について調査研究を進めます。

## **2. 校務支援システムのクラウド化**

平成31年度より校務支援システムを市内全小中学校へ導入し、校務情報の電子化や全道統一システムを導入することにより教職員の人事異動に伴う負担軽減を図っています。

しかし、現行のシステムはオンプレミス型で運用しており、学習系で生成されたデータと校務支援システムに蓄積された校務系データの連携が困難であること、自宅や出張先で校務処理ができないことなどの課題がある状況です。

グループウェア、保護者連絡、備品管理などの汎用クラウドツールと連携し、教職員間での会議資料等のペーパーレス化、事務負担軽減、コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とする環境を構築するため、文部科学省「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の状況を注視しつつ、教職員と学校現場における課題とニーズ等の現状分析や望ましい校務のあり方に関する検討を行い、校務支援システムのクラウド化を目指します。

## **3. 汎用クラウドツールの一層の活用**

### **(1) GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用**

教職員間や教職員と児童生徒のデータ共有等、多くの学校で校内においてクラウドサービスを活用しています。その一方で、「保護者への調査・アンケート」や「保護者からの問い合わせや連絡」については、活用が進んでいないことから、先進地域の事例紹介や教職員に対する研修会の実施により、各学校におけるクラウドサービスの対象が広がるよう支援を行っていきます。

実施に必要なセキュリティの確保やルールを取り決め等もあわせて進めます。

## （２）FAX・押印等の制度・慣行の見直し

保護者や外部とのやり取りで押印・署名が必要な書類があることから、学校でFAXを活用している状況です。

このことから、FAXや押印等について見直しを行うとともに、FAXでの送付や押印を求めている関係団体・事業者等にも見直しについて協力を求めています。

## （３）教育情報セキュリティポリシーの策定

クラウド上のデータやクラウドサービスを活用することを前提とした教育情報セキュリティポリシーを策定し、国の方向性や現状を的確に把握しながら、随時改正を進めています。

現在まで各種デジタル化やオンライン化を進めてきていますが、学校現場は依然として紙ベースの資料が多いことから、業務の円滑化・効率化を図るため、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく必要があります。